



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第29回〕 口腔ケア～寝たきりになってしまうと…

監修／歯学博士 鹿島 健司

誤嚥性肺炎等の防止や術後合併症の軽減、また超高齢社会に対応するために、歯科の領域においても在宅医療の推進が図られてきており、私たち歯科医が訪問して寝たきりになってしまった高齢者の方々の診療を行なうことが増えてきています。義歯(入れ歯)の修理や脱離してしまった修復物(つめ物)の再セットといった訪問先でできる治療を中心に、口腔の環境が良くなるように口腔ケアがしっかりできるような処置や、患者本人や家族(介護者)に対する指導も行なわれています。

2年ほど前の訪問診療で、口腔清掃が不良で歯垢まみれになっている方がいらっしゃいました。歯と歯肉の境目や歯と歯の間にびっしりと歯垢が付着し、強い口臭を伴っていました(写真1、2)。



写真1 口腔清掃不良の方のお口



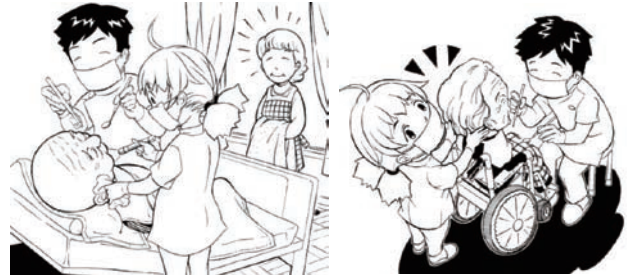
写真2 歯間ブラシによる清掃

細菌の巣であるプラークがこのようにたくさん付着しているのですから、不健康極まりないと言えます。加齢によって免疫力が低下している上に、このような状態を放置することで誤嚥性肺炎をはじめ種々の感染症に罹りやすくなってしまいます。



写真3 口腔清掃後の状態

口腔清掃によって歯垢や食べかすを除去してキレイになった状態が写真3で



来院が不可能な患者でも自宅で歯の治療が受けられます!

す。歯磨きの仕方や歯間ブラシ等の補助的清掃器具の使用法を指導し、家族にも説明しました。介護する方は口腔を食器と考え、食後のケアを忘れないように心がけていただきたいものです。

その後しばらくは大丈夫ということで連絡が無かったのですが再び訪問すると、写真4、写真5のようにほとんどの歯が崩壊状態になっていました。



写真4(左)と写真5 8か月でこんなにボロボロ



写真6 なんとか義歯を装着

残せる歯は何とか保存して、義歯を作製しましたが、その後のケアをしっかりと行なってもらっています(写真6)。

要介護高齢者では、口腔ケアを“している”つもりでも“できていない”ことがよくあります。特に脳血管疾患によって手足が不自由だったり、口腔内の知覚麻痺や舌の運動障害があったり、リウマチやパーキンソン等で筋力が低下している場合、さらには加齢や認知症等のケースでは、自分自身で口腔ケアを行なうことは難しくなります。そのような際には介護者による口腔ケアがより重要となります。皆さんの周りに寝たきりの方がいれば、歯や摂食のことで困っているようでしたら、かかりつけ歯科医に相談してみるよう御助言いただければと思います。

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月生まれ。かしま歯科医院院長 日本大学兼任講師。川口歯科医師会学術部長